

AALA ニュース103号 ウクライナ第4弾 の内容紹介

編集部より

103号の内容を紹介します。情勢を反映して、今回もウクライナ特集です。

過日の国連総会決議でロシアへの糾弾・非難は当然ですが、棄権票を投じた国に非難が集中したことについては、よく考えてみるべきです。逆に強硬派に支持が集中していますが、暴力の応酬は不毛かつ危険です。

なぜならロシアとウクライナは、そもそも戦うべき相手ではないからです。なにも戦う理由などないのです。どこかにボタンの掛け違いがあるはずで
す。私たちは国際社会の一員として、不拔の「平和派」であるべきだと思います。

1. ミャシアイマー「ウクライナは NATO に責任」

YouTube からの文字起こしです。奇跡の 20 分というか、中身てんこ盛り
の話です。記事に起こしたら 6600 字、A4 で 9 ページになりました。アメリカでもだいぶ評判になったスピーチのようです。

一応、編集部で小見出しを付けましたが、それでもなお難しい。小見出しを
並べて目次もどきを作りました。こんな流れで話しているということを頭
においてから読み始めてください。

はじめに

I 危機の起源と歴史

ウクライナを西側の防壁に

NATO は一線を越えた

反撃を開始したロシア

2014年のウクライナ危機

Ⅱ ロシア政治の基本_「リアルポリティーク」

「今後はもう許さない」

米国はロシアの善良な隣人であったのか

Ⅲ 2021年に起こったこと

「ウクライナは味方」はただのレトリック

危機を鎮静化させるべき希望とは？

2. 野本久夫「ロシアはウクライナへの軍事侵攻を止め撤退せよ」

AALA 会員の投稿シリーズです。野本代表委員の活発な活動から学ぶことは多いと思います。ちなみに **Hi! ノモト** のアドレスは下記の通り。

<https://mobile.twitter.com/nomohisa>

3. 小松崎栄「ロシア軍は即時・無条件に撤退せよ！ 国連決議で、国際連帯と事態の解決を」

AALA 会員の投稿シリーズです。日本 AALA 顧問、小松崎さんの2万字近い力作（個人論文）です。文末に著者の作成した正誤表があります。

4. シェリアジェンコ「紛争激化阻止へ非暴力の抵抗を」

侵攻開始直前のインタビュー記事、[ウクライナ平和主義運動「ウクライナからの平和メッセージ」](#)（[AALA ニュース 100 号](#)）に続くものとなっています。あわせてお読みいただくと、侵攻開始によって「平和主義運動」の立場がどう変わったかが明らかになります。

名文句が珠玉のごとく散りばめられていて、人を感動させる不思議な力を持

っています。

それにしても、この人何回出てくるのだろう。

5. グテーレス事務総長「ウクライナ侵攻が途上国経済を直撃」

ウクライナの話が戦闘と非人道攻撃の話に集中しているので、どうも視野が狭くなっているのが気になります。

やはり世界が全体として直面しているのは資源インフレ、供給インフレの問題でしょう。すでに深刻化しつつあるインフレに、こんごう k 裏否がどう関係してくるのか。グテーレス事務総長はさすがにそのあたりにも気配りしています。

6. Daily Maveric「南ア決議案のてん末」

“Daily Maveric” という南アフリカのネットニュースの記事（25 Mar 2022）です。南アが独自の決議案を国連総会に提出し、否決されるに至った経過を詳らかにしています。経過を知って改めて、南アの提案は今後の交渉を占う上で大事な提案だと思われます。

7. D・アドラー「なぜ南の世界はどちらの側にもつかないのか」

英ガーディアン紙に掲載された評論。アドラーはバーニー・サンダースの外交政策顧問をつとめた政治経済学者です。

NATO 勢力は西欧左翼に NATO につくかロシアにつくかを迫っているが、**左翼の選択肢は軍事同盟か非同盟中立かしかない**と論じています。そしてそれが南の諸国との連帯を媒介にして実現すると訴えます。

申し遅れましたが

前回、原稿締め切ってから、編集者権限を乱用して国連安保理への人権上級代表の報告を突っ込みました。

いま戦争一般ではなくロシアの非人道的な武力攻撃が問題になっています。これについては、ロシアの反論ができないままに不確かな情報が乱舞する可能性が大いにあります。いわゆる「炎上状態」です。

交渉の行方をミスリードする可能性もあり、国連が責任を持って提出した数字にもとづいて議論する必要があるでしょう。